



毎日ビデオジャーナリズムラボ

スキルよりもスピリット！

スマホを片手に「私だから伝えられる」現場を発信しよう。

-第5期受講生募集(30名限定)-

共催：毎日新聞社/GARDEN

対象：人に伝わる発信がしたい人、
情報発信の心構えを学びたい人
(テクニック養成講座ではありません)

期間：2019年4月～2019年9月

時間：14時～18時

場所：ワйм貸会議室 四谷三丁目

(第6回のみ毎日新聞社内「毎日ホール」)

受講料：全6回講座 30,000円(税込)

レギュラー講師：



白鷗大学客員教授
下村健一



毎日新聞GHD取締役
小川一



ジャーナリスト
堀潤

日程・内容

第1回：2019年4月13日(土)

ゲスト：せきぐちあいみさん「私の視点・私の手段」

第2回：2019年5月26日(日)

ゲスト：きたむらけんじさん「テーマを定める」

第3回：2019年6月16日(日)

ゲスト：高橋智史さん「聴く力～被写体との距離感～」

第4回：2019年7月28日(日)

ゲスト：信友直子さん「自問自答する」

第5回：2019年8月25日(日)

ゲスト：丹下紘希さん「伝える目的～誰に届けるのか～」

第6回：2019年9月29日(日)

ゲスト：安田菜津紀さん「動画制作発表会」

目標

- 1、市民発信の意義を学ぶ
 - ・「私だから伝えられる」現場を、「私の視点」で
 - ・「小さな主語」で「今」を記録する
- 2、伝える「覚悟」「姿勢」「心構え」を身につける
プロの発信者は現場や人とどう向き合っているか？
- 3、伝える「スキル」を身につける
 - ・基本の撮影方法(画角、構図、音など)
 - ・テーマ設定、ストーリー構成
 - ・インタビューでの撮り方、聴き方

※本講座では、スキルよりも発信に対する姿勢を学ぶことを重視しています。テクニックを養成する講座ではありません。予めご了承ください。

※毎回、撮影や編集などの事前課題があります。

※撮影・編集用にスマートフォンとPCをご準備ください。

お問い合わせ：garden.videoj@gmail.com／Webサイト：https://m-videoj.com



毎日ビデオジャーナリズムラボ

レギュラー講師

白鷗大学客員教授 下村健一さん

TBS報道局アナ（スペースJ、等）を15年務めた後、フリーキャスター（筑紫哲也NEWS23、サタデーずばッと、等）10年。スクープ等で社内外表彰16回。その後、2010年から内閣広報室の中枢に約900日在職、民主・自民の3政権で政府の情報発信に従事。現在は大学のみならず、小学5年生の国語教科書（光村）に「想像力のスイッチを入れよう」を執筆するなど、幅広い年代の子ども達のメディア・情報教育に携わる。主著『10代からの情報キャッチボール入門』（岩波）。

毎日新聞GHD取締役 小川一さん

総合メディア戦略担当 デジタル担当。京都大学卒業後、1981年毎日新聞社入社。社会部長、販売局次長、コンテンツ事業本部次長、「教育と新聞」推進本部長、編集編成局長などを経て現職。共著に「犯罪報道と人権」（現代書館）、「報道される側の人権」（明石書店）、「犯罪被害者対策の現状」（東京法令出版）、「あなたの個人情報が危ない」（小学館）など。

共催：毎日新聞社/GARDEN

お問い合わせ：garden.videoj@gmail.com

Webサイト：https://m-videoj.com

ジャーナリスト・キャスター 堀潤さん

元NHKアナウンサー、2001年NHK入局。「ニュースウォッチ9」リポーター、「Bizスポ」キャスターを務める。2012年、米国ロサンゼルスUCLAで客員研究員、日米の原発メルトダウン事故を追ったドキュメンタリー映画「変身 Metamorphosis」を制作。2013年NHKを退局し、NPO法人8bitNews設立。2017年には株式会社GARDENを設立。現在、TOKYO MX「モーニングCROSS」、J-WAVE「JAM THE WORLD」、AbemaTV「AbemaPrime」など多数出演。

ゲスト講師

せきぐちあいみさん（VRアーティスト）

神奈川県相模原市生まれ。クリーク・アンド・リバー社所属。VRアーティストとして多種多様なアート作品を制作しながら、国内にとどまらず、海外（アメリカ、ドイツ、タイ、マレーシア、シンガポールetc）でもVRパフォーマンスを披露して活動している。2017年、VRアート普及のため、世界初のVR個展を実施すべくクラウドファンディングに挑戦し、目標額の3倍強（347%）を達成。博報堂プロダクツアドバイザー。

きたむらけんじさん（放送作家／脚本家）

放送作家としてJAM THE WORLD（J-WAVE）、STEP ONE（J-WAVE）などのニュース／情報番組などを手がける。舞台公演では、取材を元にした社会派の人情喜劇を作劇。福島県小名浜にあるソープラント街を舞台にした「泡」、米軍基地建設に揺れる沖縄県民の心情を描いた「無心」、知的障害者の雇用問題を題材に「働くこと」の真理を描いた「幸福な職場」。最新作は東京大空襲で被災した実在女性の半生を描いた「魚の目に水は映らず」。

高橋智史さん（フォトジャーナリスト）

日本大学芸術学部写真学科卒。大学在学中の2003年からカンボジアを中心に東南アジアの社会問題の取材を開始。2007年4月からカンボジアの首都プノンペンに居を移し、同年から約4年間、カンボジアの社会問題、生活、文化、歴史を集中的に取材し、秋田魁新報新聞連載「素顔のカンボジア」で発表。現在は、政府と開発業者による土地の強制収容問題等の人権問題に焦点を当て、権力の横暴に命をかけて立ち向かう人々の切望を記録し、Cambodia Daily、CNBC、The Guardianなどの英字メディアへの掲載を中心に、取材活動を続けている。去年でカンボジア取材通算15年目を迎え、最新の写真集「RESISTANCE カンボジア・屈せざる人々の願い」を刊行した。

信友直子さん（映画監督）

1984年東京大学文学部卒業。1986年から映像制作に携わり、フジテレビ「NONFIX」や「ザ・ノンフィクション」で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。「NONFIX 青山世多加」で放送文化基金賞奨励賞、「ザ・ノンフィクション おっぱいと東京タワー〜私の乳がん日記」でニューヨークフェスティバル銀賞・ギャラクシー賞奨励賞を受賞。他に、北朝鮮拉致問題・ひきこもり・若年認知症・ネットカフェ難民などの社会的なテーマから、アキバ系や草食男子などの生態という現代社会の一面を切り取ってきた。映画初監督作品「ぼけますから、よろしくお願いします。」公開中。

丹下紘希さん（人間、ときどき映像作家）

ミュージックビデオの監督、アートディレクター。視点を変えて生きていく社会芸術運動「Noddin」創設メンバー。戦争のつくりかたアニメーションプロジェクト発起人。架空の政党、自由無党派員。「未来への手紙」「はじまりのひかりんご」「投票所はあっちプロジェクト」「あなたを心配する手紙」「騙されない機能付きテレビ真実一号」「概念ガチャ-お金とは何か？」差別などの理不尽、自然の破壊、暴力、戦争のない、ちょうどいい人間を目指す。

安田菜津紀さん（フォトジャーナリスト）

Dialogue for People所属。16歳のとき、「国境なき子どもたち」友情のレポーターとしてカンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材。現在、東南アジア、中東、アフリカ、日本国内で難民や貧困、災害の取材を進める。東日本大震災以降は陸前高田市を中心に、被災地を記録し続けている。著書に『写真で伝える仕事-世界の子どもたちと向き合って-』（日本写真企画）、他。上智大学卒。現在、TBSテレビ「サンデーモーニング」にコメンテーターとして出演中。



毎日ビデオジャーナリズムラボ

共催：毎日新聞社/GARDEN

お問い合わせ：garden.videoj@gmail.com

Webサイト：https://m-videoj.com

毎日ビデオジャーナリズムラボとは？

スキルよりもスピリット！スマホを片手に「私だから伝えられる」現場を発信しよう。

映像等で発信し続けているプロフェッショナルから発信のノウハウを実践的に学び、個人の発信力育成を目指す全6回のワークショップ（毎日新聞社/GARDEN主催）です。

インターネットやスマートフォンの普及が進み、誰もが情報発信者になれる時代。市民の発信力を育成しようと、「毎日新聞社」と、堀潤が主宰するNPO法人「8bitNews」の共催で、公開講座「毎日女性会議」を2014年1月に開講しました。17年4月からは、発信者を育成する「毎日ビデオジャーナリズムラボ」（月1回開講）と、情報を「想像して観る」力を養う「毎日リテラシーラボ」（毎年3月と9月に開講）の二つの講座にリニューアルしました。

レギュラー講師は、白鷗大学客員教授下村健一さん、毎日新聞社取締役小川一さん、ジャーナリスト堀潤さん。毎回、発信に長けたゲスト講師の方もお招きし、発信するにあたって知っておきたい姿勢やコツを学んでいきます。

「私だから伝えられる」現場を、「私の視点」で発信できる力を身につけることを大切にしています。使用するのはあなたのスマートフォン。目指すのはスキルの向こう側。伝える「責任」を身につけ、人の心に届く発信を最終回では全6回講座を通して学んだ成果を1本の動画作品の形にして発表会を行います！